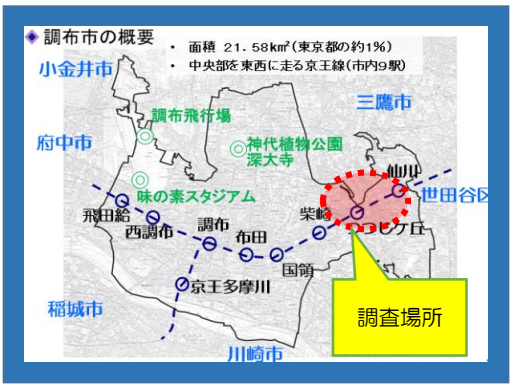
令和６年度東京都「流域対策等強化推進事業」採択

事業概要書　〔 調布市 〕

【事業名】

崖線樹林地等の
グリーンインフラ活用に向けた現況調査

場所：調布市内の崖線樹林地（入間町１丁目・２丁目）



１．事業概要

１－１．事業背景

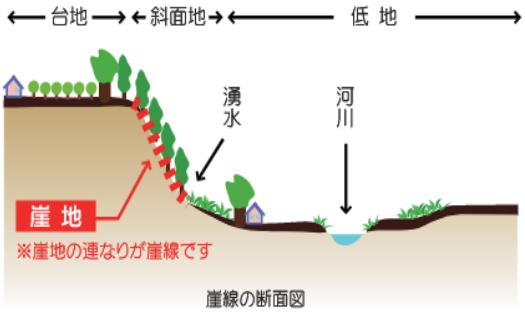
近年の豪雨，線状降水帯，台風などによる激甚災害が多発するなか，令和５年度に市内で発生した樹林地の倒木による民家の屋根損壊等を契機に，土砂災害警戒区域等に対する対策を進める一方，近年大きな意識変化となる環境への配慮，関心の高まりに対応した取組を進めています。

緑の保全とその取り巻く状況，そして，都市機能や人々の価値観の変化は，自然環境と都市機能の調和が重要視されるようになり，気候変動への適応，脱炭素社会に向けた取組など，社会的な課題解決への緑の活用が更に高まるようになっています。

調布市では，グリーンインフラの活用を発展的に進めていくにあたり，樹林地の保全と両立した防災・減災機能の可能性に着目し，市内に存在する崖線樹林地について，基礎データの取得による効果測定，メカニズム解析（地質の浸透量，樹木の保水量との関係等）の試みなどにより，官民連携によるグリーンインフラ活用モデルの構築を目指すものです。

崖線とは？

河川が長い間に台地を浸食して形成した崖地の連なりが「崖線」です。崖線の緑は、身近に湧水や動植物などに触れられる貴重な空間であることから、都市においては大切な緑であり、都市の緑の骨格です。



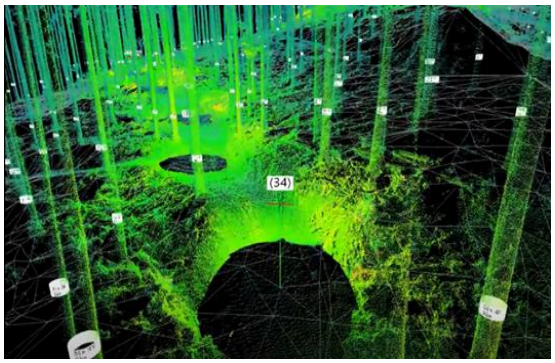
「多摩川由来の崖線の緑の保全にむけてのガイドライン」より
平成 24 年３月「多摩川由来の崖線の緑を保全する協議会」発行

１－２．課題への対応

崖線樹林地の雨水貯留・浸透機能について，グリーンインフラとして活用可能な自然本来の持つ力，緑が保有する機能について，基礎調査，効果検証，メカニズム解析（地質の浸透量，樹木の保水量との関係等）手法を検討し，グリーンインフラの活用可能性に向けた調査，効果測定に基づく検証を試みます。

１－３．取組に伴う効果

- 基礎調査，効果測定で得られた調査結果に基づく考察
- グリーンインフラ活用可能性，検証結果及び市民協働等における活用に関する報告書
- 樹林地保全，防災・減災機能，グリーンインフラ活用等の課題抽出，崖線マップ作成，他団体への情報提供



ドローンにより取得したデータ処理イメージ

１－４．スケジュール

ドローンによる樹木調査の試験的運用テスト，取得データの整理及び分析，効果測定手法の考案，検討を行います。

調査結果に基づく効果測定，検証結果から見る活用可能性の取りまとめ，各種データ及び分析結果の共有等，課題整理内容について，ワークショップ，報告会を通じた情報提供を予定しています。

スケジュール表〔予定〕

項　目	令和６年				令和７年		
	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
事前準備							
点群データ取得 （ドローン等活用）							
データ処理 メカニズム解析							
ＷＳ・報告会の開催 報告書作成							

２．当事業の特徴

豪雨対策，土砂災害警戒区域などの気候変動対策において，緑が持つ自然の機能が，防災・減災における役割，活用として，環境保全の取組と災害対策との両立，調和の取れたグリーンインフラ活用への試みであり，多面的な機能活用への実現を目指す，国内初めての取組として実施します。

市内に技術研究所を立地する大手建設事業者の協力による先端技術の提供，調査分析及び知見等に基づく官民連携事業は，都心部における災害対策，環境・緑の保全と両立した取組事例として，世界的にも重要視される自然環境と都市機能の調和に通じる豪雨・流域対策事業として行います。

① 崖線樹林地という地域課題に着目したグリーインフラの検討
② ドローン等を活用して，効果のメカニズム解析を行うなど，先端技術を活用した検証
③ 官民連携の取組による相乗効果

３．連携事業者

鹿島建設株式会社 技術研究所（調布市飛田給２丁目１９番地１）
鹿島技術研究所サスティナブルラボグループ

４．実施主体・担当部署

調布市環境部 緑と公園課